

# HOWS

会場 **本郷文化フォーラムホール**  
 〒113-0033東京都文京区本郷3の29の10飯島ビル1F  
 (最寄駅=地下鉄本郷三丁目)  
 ■問い合わせ TEL=03(5804)1656  
 FAX=03(5804)1609  
 メールアドレス=hows@dream.ocn.ne.jp

〈シリーズ〉日本の短編小説を読む 第4回

日時

3月11日(水)

開始 18:30  
 終了 21:15

## 太宰治「東京八景」

(『走れメロス』新潮文庫収録)

講師

**立野正裕**

明治大学元教員

今期は久しぶりに日本文学に立ち返り、近現代作家から重要な三人の秀作を選んだ。いずれも作家として生活者として、小説を書き続けてゆくことの苦悩と決意を揺るぎない筆致のうちに描き出し、困難な状況と時代に立ち向かう人間の真摯な姿を浮き彫りにする。(開始時間は各回とも午後6時30分)

〈シリーズ〉日本と朝鮮半島の関係史(1960年代~1970年代)と現在 第2回

日時

3月14日(土)

開始 13:00  
 終了 16:30

## 日韓条約の問題点

——韓国報道番組を上映して

講師

**土松克典**

韓国労働運動研究

元「徴用工」といわれる戦時強制動員被害者への慰謝料支払いを命じた2018年10月の韓国大法院判決以降、日韓関係は政治・経済・軍事などの諸分野で軋轢が生じ、いまま修復の糸口がつかめていない。日本政府は、1965年の日韓基本条約にともなう日韓請求権協定の締結で「すべて解決済み」を主張するが、この日韓基本条約と関連協定は日本と韓国に何をもたらしたのか? 「ソウル地下鉄事件」など、韓国で当たり前のことでも日本では知られていない、あるいは忘れ去られたことがある。米国を後ろ盾にして日韓間の癒着構造がいかにも生まれ、それが戦前・戦後そして現在とどのような関係にあるのか? それを、GSOMIA延長問題をめぐって日韓関係が極度に悪化した昨年8月の時期に韓国内で放送された報道番組をみて考える。

ところで、今年11月13日は全泰壹<sup>チョンテイル</sup>烈士の焼身抗議50年にあたる。全泰壹青年は、ソウル清溪川の平和市場で働く若い縫製労働者たちの労働環境改善のために東奔西走したが、ついに1970年のこの日、「勤労基準法を守れ! われわれは機械ではない! わたしの死を忘れるな!」の叫びを残して焼身抗議した。かれがソウルの労働現場で闘った18歳から22歳(1965年から1970年)までの5年間と、日韓請求権協定によって無償3億ドル、有償2億ドルに相当するヒト・モノが日本から流入して「漢川の奇跡」が喧伝された時期はちょうど重なる。全泰壹烈士はこの時代のなにとたたかったのか? このことも併せて考えてみたい。



会場案内 ★最寄り駅は地下鉄丸の内線・大江戸線  
**本郷三丁目駅**

日時

3月18日(水)

開始 18:45

終了 21:15

講師

萩尾健太

弁護士

## 政府・独占による労働運動根絶やし攻撃をはね返そう

——関西生コン労働者への弾圧の意味するもの

全日建運輸連帯労組関西地区生コン支部（関西生コン支部）に対して、2018年7月以降、逮捕者述べ89人、うち71人を起訴するという大弾圧が続いています。ストライキやピラマキ、そして企業へのコンプライアンス活動を威力業務妨害、恐喝未遂等々の「罪状」にでっち上げた不当な攻撃です。争議行為が労働組合法で刑事免責されていること等を承知のうえで、滋賀県警、大阪府警、和歌山県警、京都府警が独占と一体となって、労働組合つづしを狙っているのです。

関西生コン支部は、セメントや生コンクリートを建設現場に運ぶ運転手を中心とした、企業横断的な職能別・産業別労働組合です。雇用主である中小・零細企業を協同組合に組織して集団交渉で賃金・労働条件の統一を図ることで企業間競争を排除し、大企業・ゼネコンと対等な力関係を築き上げてきました。建設現場で適正な工事が行なわれるようコンプライアンス（法令遵守）活動を行なってきました。こうした正当な組合活動を敵視し、根絶やしにしようという国家的不当労働行為が、関西生コン支部への弾圧です。委員長と副委員長はすでに1年5か月を超える長期間、勾留されています。きわめて異常なことです。講座では、この弾圧事件の経過と背景、国賠訴訟や国際人権法による反撃、当該労組や支援する会の闘いを紹介しながら、この弾圧をはね返していくことはすべての労働者、労働組合、市民にとってみずからの課題にほかならないことを明らかにしていきます。

日時

3月21日(土)

開始 13:00

終了 16:30

報告

杉山雄大

HOWS受講生

## 「第八部 永劫の章」(第四、終曲)

—— 東堂太郎のその後

■アドバイザー

立野正裕 (元明治大学教員)

山口直孝 (二松学舎大学教員)

アジア太平洋戦争中の対馬兵營を舞台に、青年知識人東堂太郎が不条理に抵抗しながら再生していくさまを描いた本作は、20世紀文学の傑作と評価されている。全五巻、文庫本で2,500ページの大作を読み、主人公たちがたたかう精神をいかにつちかい、連帯する可能性をはぐくんでいったかを検証し、その今日的意義を探っていく。

★本講座で使用するのは光文社文庫版第5巻です。

日時

3月28日(土)

開始 13:00

終了 16:45

講師

カンソウン

康成銀

朝鮮大学校朝鮮問題  
研究センター長

## 21世紀の朝鮮と日本

—— 脱植民地主義・脱冷戦

朝鮮半島と日本は、古代より深いつながりを持っていたにもかかわらず、明治維新を境に帝国主義の道を歩んだ日本は、隣国の朝鮮を侵略し、35年間に及ぶ植民地支配しました。1945年に無条件降伏をさせられましたが、その根は完全に掘り起されはしませんでした。本講座では、隣りあう朝鮮半島と日本の歴史を、1年間のシリーズを通じて学んでいきます。

本講座は前期からの連続講座です。

